

パステル

未来を描く 十人十色のハーモニー

2. | 巻頭インタビュー |

お笑い芸人・タレント

パトリック・ハーランさん

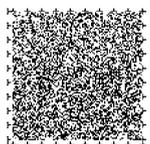
ワーク・ライフ・バランスで
充実した人生を生きよう！

4. | 特集 | いまもこれからも
私らしく生きるための
ワーク・ライフ・バランス

6. | true colors 自分色はっけん vol.5 |
(有)岸本工業 須藤 祐子さん
取締役

7. 区からのお知らせ

8. エセナおおたからのお知らせ



ワーク・ライフ・バランスで 充実した人生を生きよう!

お笑いコンビ・パッケンマッケンのパッケンことパトリック・ハーランさんは、25年以上前に来日した当時、日本人の働き方や会社での女性の立場に違和感があったといいます。ハーバード大学を卒業したマルチタレントとして活躍するパッケンの目から見た日本人の仕事とプライベートのバランスは、その後どう変わってきているのでしょうか。13歳の息子と11歳の娘をもつ父親として、育児や家族関係についても語っていただきました。

パトリック・ハーランさん

お笑い芸人・タレント

1970年生まれ。アメリカ合衆国コロラド州出身。1993年、ハーバード大学比較宗教学部を卒業後、来日。1997年、吉田真さんとお笑いコンビ「パッケンマッケン」を結成。現在は「報道1930」(BS-TBS)や「モーニングサテライト」(テレビ東京)などに出演中。2012年からは東京工業大学非常勤講師(「コミュニケーションと国際関係」)を務めている。「ツカむ!話術」(2014年 角川書店)、『大統領の演説』(2016年 角川Oneテーマ21)、『世界と渡り合うためのひとり外交術』(2017年 毎日新聞出版)、『日本バイアス』を外せ! 世界一幸せな国になるための緊急提案15 (2018年 小学館)、『ハーバード流「聞く」技術』(2020年 角川新書)など、著書多数。

働き方や女性の立場も 徐々に変わりつつあります

僕が来日して最初に就職した英会話学校では、毎日のように同僚や上司と飲みニケーションをしていました。まともな日本語が話せないのに愛想笑いをしなくてはいけないのが辛かったです。その頃と比べると、今は飲みニケーションが減り、誘われても断れるようになり、日本人も仕事中心の人生じゃなくなってきている気がします。社会や会社における女性の立場も変化しようと思っています。僕が就職活動をしたときの面接で、事務職の女性にお茶出しをさせていたことに「この人はウエイトレスじゃないでしょう」という違和感がありました。お茶出しをさせるというのは上下関係が明らかになる瞬間なので、アメリカでは嫌がられますね。お茶やコーヒーは、飲みたい人が自分で用意するのが当たり前で、契約時の仕事内容になければ、やらないと思います。

その他にも、会議で発言できない女性が多かったり、女性役員がいなかったりしましたが、徐々に改善され、違和感が減ってきました。でもまだまだ変えていけると思うんです。ただ、特に女性の立場において、アメリカは全然お手本になりません。例えば、男女間で賃金の差別があり、

女性の平均賃金は、同じ職の男性の70〜80%しかもらえないし、パートタイムで働く主婦は蔑視されます。また、生活の中では、女性に対する暴力が深刻な問題です。アメリカでは1日に平均4人も女性が配偶者等に殺されているんですよ。日本とはだいぶ状況が違いますよね。

日本はアメリカよりも 子育てしやすいと思います

僕は子育てが本業で、芸能活動は趣味だと思っています。子どもが赤ちゃんだった頃、夜泣きをしたときの対応は僕の担当でした。ただ、おっぱいが必要なときは、奥さんしか持つていないから仕方なくお願いしました! 子どもが大きくなってきた今では、食事のときのテーブルセッティ

ングと片付け、皿洗いは僕と子どもがやっています。奥さんのご飯は本当においしいんですよ!

日本は子育てをする環境がすごく整っていると思います。母子手帳、出産手当金、乳幼児検診、医療費助成制度などのサポートシステムは素晴らしいです。

僕の子どもは持病で8回くらい入院していますが、もしアメリカに住んでいたら、すぐく手厚い民間の保険に入っていないと医療費が高くて払えません。放課後の塾や習い事に子どもひとりで行かせても心配のない治安の良さも、共働きの親にとってありがたいですね。

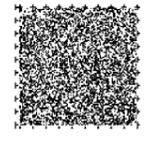
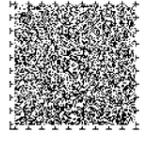
ワークもライフの両方 バランスよく楽しもう

緊急事態宣言でリモートワークという働き方の選択肢が増えました。たとえば打ち合わせをするとき、慣れたメンバーならオンライン会議で充分だったりします。移動時間をなくせば、自分の時間が増えます。でも直接会って顔を見ながら話さないで記憶に残らないこともありますよね。そういう場合は、移動時間を執筆や資料の確認作業などに充てます。内容によって使い分けることで、効率的に実のある仕事ができるよう

にと常に考えています。

僕はワークもライフのひとつだと考えていて、マルチタレントとしての仕事は、趣味や経験を活かせることばかりで、申し訳ないくらい楽しいです。大学時代は肉体労働も好きで、トイレ掃除のアルバイトでは汚いトイレがピカピカになっていくことを楽しんでいました。どの職種でも言えますが、自分から率先して楽しんで働いている人が、より有意義な仕事を任されるのではないのでしょうか。ライフは生きていることだから、ロボットみたいに働くのではなく、働くことも楽しんで、喜びと充実感を得てほしいですね。

もちろん、人生はワークだけではありません。僕は、本も読みたいし、映画も観たいし、家族と話したいし、飲みにも行きたい、そして、長期休暇を取って海外旅行もしたい。宗教学に興味があるので、昨年は待望のインドへの旅を経験しましたが、今後、訪ねてみたいと思う国はまだまだたくさんあります。死ぬ前の最後の思い出が仕事だったら悲しいですね。友だちがいっぱいできた、子どもとよく遊んだ、いろいろな体験をした、いい人生だったと振り返りたいです。ワークもライフもバランスよく楽しく生きていきたいですね。



この先どう変えていきたいか、自分の人生設計に合ったワーク・ライフ・バランスをどう実現していくかを考えてみる人もいます。

まず、将来の自分自身の生き方をイメージして、今は何を優先させて、どのくらいの割合にするか、この先どう変えていきたいか、自分の人生設計に合ったワーク・ライフ・バランスをどう実現していくかを考えてみる人もいます。

また、仕事や家庭の状況に関係なく趣味などの自分の時間を確保したい人もいれば、定年退職後や子育てがひと段落してから趣味に没頭したいと考える人もいます。

また、仕事や家庭の状況に関係なく趣味などの自分の時間を確保したい人もいれば、定年退職後や子育てがひと段落してから趣味に没頭したいと考える人もいます。

調査結果からわかるように、希望どおりのワーク・ライフ・バランスを実現できない人が少なくないのが現状です。すぐに理想的なバランスを手に入れることが難しいと感じている人も多いのではないのでしょうか。しかし、今は仕事が大半を占めてしまいうけれど、常に家族のことを想っていたり、趣味に思いついてお金をかけたり、気持ち的なバランスや経済的バランスなど、

フ・バランスを考へましよう。最近ではダイバーシティ&インクルージョン(※)を重視して、多様な人材が多様な働き方をする環境を整える企業が増えてきています。さまざまな価値観や経験、ネットワークを持った人材が集まることで、仕事上でのアイデアの原動力に繋がると注目されているからです。そのため、育児や介護、副業をしながら自分に合った働き方を選択している人もいます。育児や介護の経験、趣味などで身につけたスキルを仕事に活かす人も増えています。



エセナの本棚から
『働き方の問題図鑑
「で、どこから変える?」
旧態依然の職場の常識』
著者：沢渡あまね・奥山睦
出版社：技術評論社

【内容】
「親が突然、要介護状態に…」「子どもが発熱、さあどうしよう?」「育児後に仕事復帰したはいいけど、毎日が綱渡り…」「70歳になってまで通勤ラッシュとか、無理なんですけど」「台風地震に大雪に…出社するだけでももうヘトヘト」。そろそろ、実態に即した働き方を考えないとまずいんじゃないですか? 未来を見据え、企業も個人もハッピーになるにはどうしたらいいか考えませんか。



©大田区

※ダイバーシティ&インクルージョン…性別や年齢、国籍、文化、価値観など、さまざまなバックグラウンドを持つ人材を活用することで、それぞれの個性を尊重し、認め合い、良いところを活かすこと

いまでも
これからも



週の半分くらいは
家族と一緒に
夕飯を食べたいな

私らしく生きるための ワーク・ライフ・ バランス



仕事、家事、育児で
手いっぱい…。
一人でゆっくりできる
時間が欲しいわ

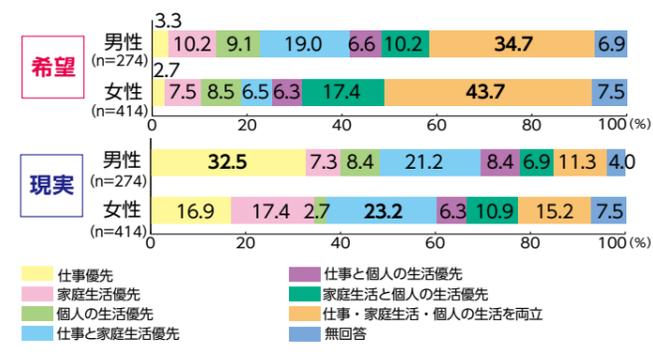
働く人の希望と現実

内閣府による男女共同参画の取り組みのひとりに、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現があります。令和元年度に大田区が実施した調査によると「生活の優先度の優先度について」の「希望」では、男性・女性ともに「仕事・家庭生活・個人の生活を両立」が最も多くなっています(表1)参照。その一方で、「現実」を聞いてみると、男性は「仕事優先」が約3分の1で最も多く、女性は「仕事と家庭生活優先」が約4分の1で最も多くなっています。「希望」と「現実」に差があり、ワーク・ライフ・バランスの実現が課題となっていることがわかります。

また、「あなたは、仕事と生活を両立できていると思いますか」という質問では、「どちらかという」と「できていない」が男性43・8%、女性41・1%で最も多く、「できていない」と思っている人が「両立できている」と思っているより多いです。

内閣府調べの日本国民全体のデータでは「ワーク・ライフ・バラ

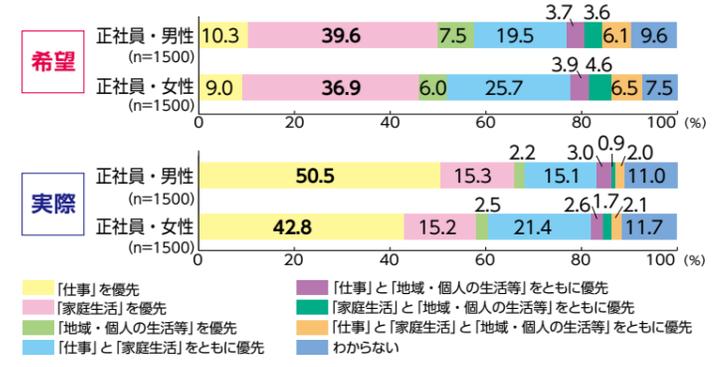
【表1】大田区調べ「ワーク・ライフ・バランスについて」
(生活の中での、仕事・家庭生活・個人の生活の優先度について)



資料引用：大田区「男女共同参画に関する意識調査報告書」

ンスの優先内容)に対して、正社員の男性・女性ともに「家庭生活を優先」したいと希望する人が最も多くて約4割。しかし実際には、正社員・男性の50・5%、正社員・女性も42・8%が「仕事を優先」した生活を送っており(表2)参照。「希望」と「現実」が「一致」だと回答した人は、男性も女性も約半数以上。何を優先させたいのか、希望は人それぞれ

【表2】内閣府調べ「ワーク・ライフ・バランスの優先内容」



資料引用：内閣府「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)レポート2019ワーク・ライフ・バランスの希望を実現～多様な個人の選択が叫ぶ社会へ～」から抜粋

れぞれですが、現実には自分の理想とする働き方や生活ができないと実感している人が多い傾向にあることが区と国双方の調査結果に現れています。あなたは仕事とプライベートのどちらを優先して生活していますか? バランスのよい暮らしができていますか?

「男性相談ダイヤル」

令和2年4月から、「男性相談ダイヤル」を開始しました。
「家庭内のこと」、「家族のこと」などの悩み事に男性相談員が対応します。

〈男性相談ダイヤル〉
TEL 03-6404-6020

〈相談日時〉
第2・4金曜日 17:00～20:00
(祝日・年末年始を除く)
※相談受付は30分前まで



大田区公式PRキャラクター
はねびよん

このサイトから
見てびよん!

【お問い合わせ】人権・男女平等推進課 電話：03-5744-1610 【大田区HP】 <https://www.city.ota.tokyo.jp/seikatsu/chiiki/danjo/index.html>

◆ インフォメーション ◆

国の動き

性犯罪・性暴力対策の 強化の方針が決定しました

令和2年度から令和4年度までの3年間を、「性犯罪・性暴力対策の集中強化期間」として、取組を抜本的に強化していくこととしました。その取組方針として、内閣府・警察庁・法務省・文部科学省・厚生労働省の局長級からなる会議において、令和2年6月「性犯罪・性暴力対策の強化の方針」を下記の内容で取りまとめました。関係機関が連携して、速やかに実行していきます。

- 刑事法に関する検討とその結果を踏まえた適切な対処
- 性犯罪者に対する再犯防止施策の更なる充実
- 被害申告・相談をしやすい環境の整備
- 切れ目のない手厚い被害者支援の確立
- 教育・啓発活動を通じた社会の意識改革と暴力予防

【内閣府男女共同参画局】

http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/seibouryoku/measures.html#policy



都の取組み

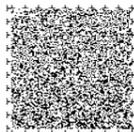
「東京の男女平等参画 データ2020」

東京都は、男女平等参画施策を効果的に推進していくため、毎年、男女平等参画に関する情報の収集及び分析を行っています。令和2年3月に「東京の男女平等参画データ2020」を発表いたしました。下記の5つの領域に分けて調査結果をまとめており、東京都のHPからご覧いただけます。

- 領域1：働く場における女性の活躍
- 領域2：女性も男性もいきいきと豊かに暮らせる東京の実現
- 領域3：多様な人々の安心な暮らしに向けた支援
- 領域4：配偶者暴力対策
- 領域5：男女平等参画を阻害する様々な暴力への対策

【東京都生活文化局都民生活部男女平等参画課】

<https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/danjo/houkoku/data/0000001453.html>



true colors



区内で活躍する男女共同参画人



(有)岸本工業 取締役
すどう ゆうこ
須藤 祐子さん

profile

大学卒業後、就職し結婚、退職、出産。その後、家業の岸本工業の営業事務として入社。夫・子ども2人の4人家族。営業事務から加工まで社内業務を一通り経験し、2009年から取締役任。2012年「下町ポプスレー」のプロジェクトに参加。

海外からも求められるモノづくりを

家業の工場に再就職

16年前、上の子の出産を終えて、また仕事を始めようと考えていたところ、母から「事務員が辞めるので手伝わないか」と誘われました。職を探していたときでもあったので、家業でもあるこの会社に入社することを決め、当時住んでいた埼玉県から一家で会社の近くに引っ越し、営業事務として働き始めました。

わが社は社長である父が40年前に創めた工場です。プラスチックの精密加工を得意としています。私が入社した頃は、優れた技術がありながらも注文がくるのをただ待っているだけの「待ち工場」でした。これではいけない!と思った私は、自分たちの技術をもっと外部に知ってもらいたいと思い、大田区産業振興協会の助言もあってプラスチック加工の展示会に出ることにしました。

家族に支えられて...

展示会に出始めた頃、下の子が生まれました。その頃の私は営業と併せて現場の加工も覚えようと忙し

く、育児も2か月弱で復帰したほどでした。上の子もまだ小さかったので、仕事と家事を両立させるのはとても大変でした。

それでも恵まれていたと思うのは、会社が自分の実家だったことです。両親・兄弟が子どもたちの保育園のお迎えや夕食などのサポートをしてくれました。本当に助かりました。

夫も私と同様、仕事からの帰宅が遅いのですが、休日には、コーチとして子どもたちが所属するソフトボールチームの指導に携わってくれました。

「待ち工場」から「世界へ女性リーダー」としての今後の展望

忙しくて子どもの気持ちに寄り添うことを心がけ、家族に支えられながら働いています。

たらく〜と言われて、女性が後継者ではダメなのかと強く意識させられた時期もありましたが、今は性別に関係なく、それぞれの得意な面を上手く活かし、能力を発揮できるよう職場でバックアップしていくのが自分の役目と思っています。このところ製造業でも少しずつ女性の後継者や技術者が増え、受け入れる側の意識も変わってきているのだと実感します。

「待ち工場」から「世界へ女性リーダー」としての今後の展望

10年ほど前から取締役になっていますが、加工や製図、プログラミングなど社内業務を一通り経験したことが、その後のお客様との折衝や段取りを考える上でとても役に立っています。自分自身、会社の旗振り役とは思っていませんが、経営に関わっている立場上、社員の雇用を何としても守らなければ、という思いはとても強いですね。



▲社長の岸本さん(父)と打ち合わせをする須藤さん

※「下町ポプスレー」…大田区の町工場が中心となり、世界トップレベルのソリを作り、自分たちのモノづくりの力を世界に発信しようというプロジェクト

◆ エセナおおたからのお知らせ ◆

大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」の取り組み

「エセナ」とはスペイン語で「ステージ・場・場面」を意味します。「男だから、女だからではなく、誰もが自分らしい生き方を選ぶことができ、その選択が認められ、あらゆる分野にすべての人が対等に参画できる社会」男女共同参画社会の実現を目指す活動拠点施設です。

学習

あなたの学びを応援

講演会や講座での学びによって、男女平等意識の普及・啓発を図り、主体的に活動するきっかけづくりを応援します。

交流・支援

情報交換や新しい仲間づくり

多様な個性との出会いや仲間との交流を通して、新しい自分を発見し、ネットワークを広げる場を提供します。小規模のミーティングや、資料作成などの作業も可能です。

調査研究

地域課題を見つける

男女共同参画に関する調査研究を行い、地域の課題に適した講演会や講座、情報提供に活かします。

情報

知りたいこと、新しいことの発見、発想の転換

男女共同参画社会づくりに関する幅広い情報を収集し、館内展示や図書の閲覧・貸出、ホームページ、メールマガジン、ツイッターなど、多様な手段で提供します。



ホームページ



ツイッター

エセナフォーラム2020

基調講演および区内活動団体が企画するワークショップや展示を開催します。団体とセンターが連携・協働し多様な地域課題の解決のために学びあい、安心して生活できる社会づくりを目指します。

10月25日(日)
開催予定!

▶昨年度の様子
基調講演「マンガ家 里中満智子が伝える あした輝く女性たちへ」



エセナおおた発行冊子

区内各施設に
配架中

パパたちのワーク・
ライフ・バランス
調査報告書



大田区立男女平等推進センター

「エセナおおた」

〒143-0016 大田区大森北4-16-4

E-mail escena@escenaota.jp

TEL 03-3766-4586

FAX 03-5764-0604

エセナおおた

検索



JR大森駅から徒歩8分。駐車場はありません。

★…案内標識

一人で悩んでいませんか？ まずは、お電話ください。

無料

相談内容	対象・電話番号	相談日時
大田区の相談窓口 女性のための たんぽぽ相談	・対象者は区内在住・在勤・在学の女性 ・面談を希望する場合、相談受付時間内に電話で要予約 ・面談中、保育(1歳～未就学児)が必要な場合は要予約 TEL 03-3766-6581	●月・金 10:00～13:00 ●火・木 13:00～16:00 ●水 18:00～21:00 ●土 13:00～19:00 ※相談受付は30分前まで
DV相談	大田区 DV 相談ダイヤル TEL 03-6423-0502	月曜日～金曜日 9:00～17:00 (祝日・年末年始を除く)
男性相談	詳しくは7ページをご覧ください。	
東京都の相談窓口 男性のための相談	東京ウィメンズプラザ 男性のための悩み相談 TEL 03-3400-5313	【電話相談】月曜日・水曜日 17:00～20:00 (祝日・年末年始を除く) 【面接相談】水曜日 19:00～20:00 (祝日・年末年始を除く) ※左記電話にて、要予約

編集・発行/大田区総務部 人権・男女平等推進課

〒144-8621 大田区蒲田5-13-14 TEL:03-5744-1610 FAX:03-5744-1556

・令和2年10月発行

・過去のバックナンバーは【大田区ホームページ > 地域社会 > 男女共同参画を目指して > 男女共同参画のための情報誌「パステル」】に掲載しています。

ご意見・ご感想もこちらのホームページからご入力いただけます。

大田区ホームページ

「パステル」

